

## 聴いている側を飽きさせない語りの理由は。。

MSW 高岡 良江

明解で、わかりやすい、聴いている側を飽きさせない語りの理由は何なのでしょう。

家森先生が、世界中の方に分かってもらい、協力を得て、データをお返しする、分かったからには変えないといけない、また資金の援助を得るためにはそうしないといけない、という主旨のことを仰っているのを伺い、なるほどと思いました。

私は病院の MSW として勤務する中、医療者が、医療者でない側に、分かってもらえるように伝える配慮が全体的に少ないと思ってきました。専門でない、しかも身体の心配を抱えている者が、どのような目線であるか、どのように受け止めるかは考慮せず、理解していないのは、聞く側の能力の問題としてしまうことが多々あります。

本当に主治医の説明が伝わっているか、患者家族に声をかけ、主治医に再度の説明をお願いする働きかけを私がすることはあっても、そのことは仕事とは思わないスタッフもいました。相手に興味をもってもらい、分かってもらって初めて始まる、この精神は、私の中で再度明確にしていきたいと思います。

食、運動、家族を含めた人間関係が、人の健康や寿命に大切であることに、誰も反論はしないでしょう。しかし、病院では、それらが重視されておらず、医療とは違うジャンルのもものと捉えられているように思います。

それは何故でしょうか。

家森先生が仰っていたように予知や予防には保険がきかないという側面があり、「病む人なき医療」を目指していないからではないかと考えます。

言い換えれば、患者は病む側でいなければならず、人生全般において「幸せ」であって欲しいが、それは医療とは別の問題だと、病院では捉えているからではないでしょうか。患者自身が自律して健康をつくるための支援は、病院には少ない気がします。

しかし、健康寿命を延ばしたいというのは、患者家族の真の願い、医療者の願いでもあるはず。

また、患者側に立てば、身体に負担をかけずに良い方向を目指したいですから、家森先生が提唱してくださった知識、行動変容は、決して医療の現場と切り離されるものではないでしょう。

私は、塩分控えめが良いということは、重々承知していながら、確かに自分が毎日、どれくらいの塩分を摂取しているかということは把握できていません。家森先生のお話を伺って、「控えたつもり」でいることを自覚し、行動を変えていきたいと思います。

まずは野菜スープに塩分は加えないことにし、きな粉を購入しました。

お話を伺っていて、家森先生はご自身がとても楽しそうだと感じました。

何かを訴えていくときに、自分自身が「楽しい」と感じていることも大切だと思いました。心に留めていきたいと思います。